

Kandai Style

2019.11 Vol.478
関西大学通信



関西大学と 百舌鳥・古市古墳群

関西大学と百舌鳥・古市古墳群

「世界文化遺産へのあゆみ 百舌鳥・古市古墳群と関西大学」

開催

大阪府初の世界文化遺産として登録された「百舌鳥・古市古墳群」。その魅力と関西大学の今後の役割などについて、大阪・東京で7月、堺市との地域連携事業の一環として、相次いでシンポジウムを開催しました。今月号の特集では、シンポジウムで示された「世界文化遺産のツボ」を紹介します。



シンポジウムは、ユネスコ(世界教育科学文化機関)の世界遺産委員会が7月6日に登録を正式決定してすぐのタイミングで開催。大阪では7月15日、千里山キャンパスで約600人が、続いて東京では7月28日、東京コンベンションホールで約500人が聴講し、関心の高さが見られました。

今回世界文化遺産に登録された百舌鳥・古市古墳群は、さまざまな形や規模の古墳計49基からなり、大阪府堺市の百舌鳥エリアと羽曳野市・藤井寺市にまたがる古市エリアに点在します。仁徳天皇陵と伝えられる国内最大の前方後円墳「大山古墳」も含まれ、4世紀後半から5世紀後半の間、中央集権的な古代国家への移行過程で、権力の大きさなどを示す歴史的価値があると認められました。

II部 シンポジウム

世界文化遺産へのあゆみ
百舌鳥・古市古墳群と関西大学



セスナ機で考古学？名誉教授の意外な研究 —— 大型古墳の新たな特徴発見

この古墳群の研究は、各大学の考古学研究者を中心に戦前から行われていましたが、大きく進展したのは戦後で、そのきっかけをつくったのは関西大学名誉教授の故末永雅雄氏です。シンポジウムでこの点に最初に触れたのは、芝井敬司学長。末永氏のモットーだった“常歩無限”を引用し、「常歩でゆっくり進むことで、限りなく遠いところまで行くことができる。関西大学も歩みを止めることなく、研究の成果を上げて遺産の保全やまちづくりまで自治体の皆さん方に協力したい」と話しました。

パネルディスカッションに登場した山口大学教授の田中晋作氏

は、ユニークだった末永氏の研究手法を紹介しました。戦後まもないころに、末永氏は古墳研究に航空機を活用することを提唱しました。1954(昭和29)年には、セスナ機に乗って堺市や羽曳野市・藤井寺市の上空から古墳群を観察し、古墳を取り巻く「周庭帯」という付属施設を発見します。この施設は、その後外濠や外堤の痕跡であることが判明しますが、大型古墳の構造解明に大きな足跡を残すことになりました。

田中晋作氏
(山口大学人文学部教授)



甲子園球場5面分の石敷きはどこから？何のため？

一方、宮内庁書陵部陵墓課陵墓調査官の徳田誠志氏は「仁徳天皇陵の保全とその調査」と題していくつか調査結果を紹介しました。例えば堤の上面で見つかったこぶし大の石敷き。もし石敷きが全面的に設置されたのであれば、使用された石は甲子園球場5面分の量に達しますが、これだけの石を一体どこから何のために運んだのかは、まだ分かっていないそうです。

また、濠の水により長年にわたって堤が少しずつ浸食された痕跡などを紹介し、学術研究を古墳の保全にどう生かすか、世界文化遺産に関連したまちづくりとどう連携させるかが今後の課題だと指摘しました。

徳田誠志氏
(宮内庁書陵部陵墓課陵墓調査官)



長さ300mの高低差わずか20cm —— 水底に見えた高度な土木技術

地元の堺市からは、堺市文化観光局世界文化遺産推進室主幹の十河良和氏と堺市文化観光局博物館学芸課主査の海邊博史氏が登壇。十河氏が遺産登録への経過を説明し、海邊氏がニサンザイ古墳の調査結果を紹介しました。この古墳では濠の水をすべて排水して調べた結果、仁徳天皇陵古墳と同様、濠の水で墳丘の裾部分が浸食され、崖のようになっていることが確認されたそうです。

またニサンザイ古墳では、古墳時代の木造橋では日本最大の橋が発見されたほか、長さ約300mの濠の底の高低差がわずか20cmで、当時の信じられないほどの高度で精密な土木技術がうかがえると話しました。

海邊博史氏
(堺市文化観光局博物館学芸課主査)



十河良和氏
(堺市文化観光局世界文化遺産推進室主幹)

歴史はまちづくりに役立つ？

第2部のパネルディスカッションでは、本学文学部の井上主税准教授の司会で、田中氏、徳田氏、十河氏、海邊氏の4人に加え、藤井寺市政策企画部世界遺産登録推進室室長の山田幸弘氏、本学文学部の米田文孝教授が参加。まず米田教授が4世紀後半から1世紀の間の東アジアにおける古墳時代の位置付けについて触れ、日本と韓国と中国のそれぞれの歴史が交わる面白さを説明しました。さらに各古墳群の保全や古墳を生かしたまちづくりへの取り組みについて、それぞれの立場から言及しました。

文学部
米田文孝教授

文学部
井上主税准教授



山田幸弘氏
(藤井寺市政策企画部世界遺産登録推進室室長)

古墳アプリから石棺レプリカまで

堺市博物館で上映されているVRシアターは、この5年余りの間に24万人の視聴があったことが堺市から紹介されました。また、藤井寺市の山田氏は、「藤井寺市古墳探検アプリ」を報告。これはスマホを使って、応神天皇陵古墳など4つの古墳の当時の様子をパノラマ画像等で楽しめるシステム。

この他、藤井寺市では津堂城山古墳で見つかった巨大な石棺のレプリカを作って展示するなどの取り組みも説明。今後、各自治体と大学・研究機関が緊密な連携を取りながら、世界文化遺産にふさわしいまちづくりを目指すことを話し合いました。



▲「藤井寺市古墳探検アプリ」のイメージ
(画像提供：藤井寺市)

▼堺市博物館「百舌鳥古墳群シアター」
(写真提供：堺市)



みんなで一緒に考えよう。

関大誌上教室

食品ロスについて学ぶ

食品ロスとは、家庭や飲食店での食べ残しや賞味期限、消費期限切れ等による廃棄食品のことで、日本の食品ロス量は年間643万トン発生しています(農林水産省「食品ロス量(平成28年度推計値)」より)。現在、消費者庁では食料資源や環境問題の観点から、食品ロスの削減に努めている状況がありますので、学生の皆さんも大いに関心があることでしょう。

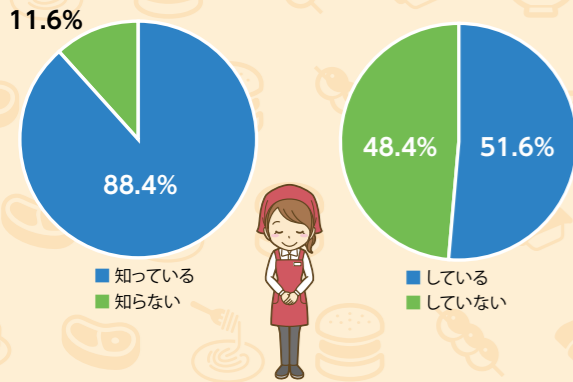
そこで今月号の誌上教室では、「食品ロス」をテーマに、皆さんがどのような工夫をこらしているのか、アルバイト先の状況はどうなのか、ということを探りました。非常に参考になることばかりです。

さあ、この意見を参考に、早速実行してみませんか。

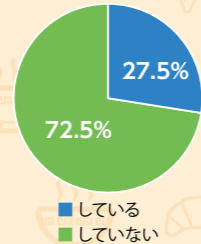
1 食品ロスに関する意識調査アンケート アンケート期間2019年7月12日～8月31日 対象者:学生 回答者数:250人

Q1 食品ロスという言葉を知っていますか。

Q2 飲食店でアルバイトをしていますか。(もしくはアルバイト経験がありますか)



Q3 アルバイト先の飲食店では、食品ロスに向けた取り組みをしていますか。(「アルバイトをしている」と回答した方のみ)

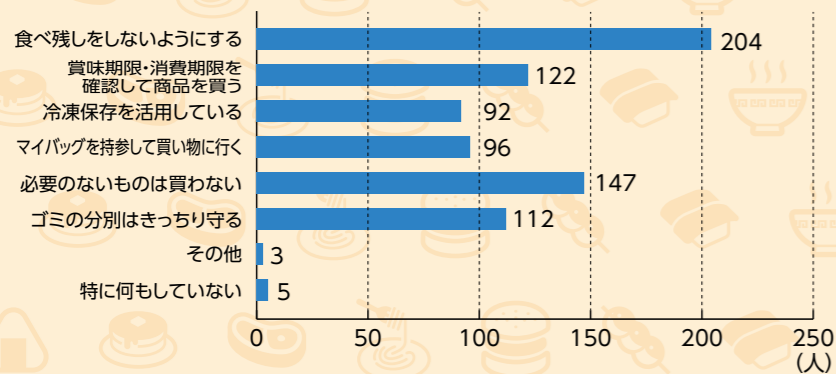


今回の調査では飲食店でのアルバイト経験者は約52%。半数以上の学生がアルバイトを経験していました。アルバイト経験者からは店が食品ロス対策として、「お客さまに提供できなくなったものは閉店後にスタッフで分ける」「賞味期限が近づいてきたら値下げをする」をはじめ、「毎日、食材の残りを確認してロスチェックを行っている(文1)」「曜日ごとのお客さんの入り具合を統計にとり、食材量を定める(商4)」「一日の売り上げ数に上限を設け、売り上げをセーブすることと引き換えに廃棄ロスを減らすためコース料理は完全予約制とし、キャンセル分は翌日昼にランチとして提供する(商2)」などきめ細やかな対応をとる店も見受けられました。その他でも、「食べ切れなかった料理は持ち帰りを受け付けている(理工M1)」「回転ずし店では、レーンに流すお寿司の量に制限がかかった(経4)」「オーダーミスがないように確認の徹底(商4)」などの対策が行われているようです。

食べ残さない! ムダなものは買わない!

学生の自主的な取り組みとして、「最初から適量を注文する(食べ残さない)」「賞味期限を確かめてから購入する」「いらぬものは買わない」「冷凍できるものは冷凍保存する」という回答が多く、外食先や自宅で食べ物を大切にしよう、との思いからか学生が自ら工夫をこらしている様子がうかがえます。また、「その日に食べるのであれば割引商品を買うことにしていると、費用を抑えることができた(文1)」と食品ロス対策から生じたメリットを喜ぶ声や、留学経験者からは「留学を通して、いかに日本人の食生活が贅沢なものであるのかということを実感した(文4)」という厳しい指摘もありました。一方、「企業だけに食品ロスの責任を押し付けるのではなく、国が何らかの対策をすべきだ(商2)」「法的措置を取らない限り改善は厳しいと感じる(社1)」など国の規制強化を求める意見もありました。

Q4 食品ロスの削減、ゴミの分別等環境への取り組みについて、自分で取り組んでいることを教えてください。(複数回答可)



PROFESSOR'S COMMENTS

商学部 中畷道靖教授

日本のものづくり(工場)でも、ゼロエミッションという考えに基づき1990年代から廃棄物削減は積極的に取り組まれています。レストランや宿泊施設など飲食業でも、料理の食べ残しは問題視されていましたが、「贅を尽くす」という価値観の変化が必要でした。今、SDGsが普及し始め、具体的な目標に「小売・消費レベルにおける世

界全体の一人あたりの食品の廃棄を半減させ、食品ロスを減少させる」ことがあり日本社会の重要課題になっています。

食品ロスを減らすためのポイントは、まずはどれだけの食品ロス(重量)を出しているのか、個々の食品ロスがなぜ出るのかを探り対策を練ることです。そして、なぜその食品(量)が提供されたのか、皆さんにとって必要な量や満足する食品とは何かを、アンケート結果や学生の声にもあるように、食品を提供する人、食べる人などとデータをもとに話し合うことが大切です。私たちが目指す食文化(食のパリューチェーン)を関大発でつくり出しましょう。

2 キャンパス内飲食店「食品ロス」アンケート結果

今回の「誌上教室」アンケートを各キャンパスの飲食店にお願いしたところ、すべての店から回答がありました。ここでは、食品ロス削減に向けて、各店舗ではどのような取り組みをしているのか、また学生に対して協力してもらいたいことを紹介します。

各店とも食品ロス対策として共通していることは、「食品の発注の精度をあげ、仕入れ過ぎないこと」であり、その上で「賞味期限の見直し」「無駄な仕込みの減少」を行っています。

その結果、生協では再利用できる食品とそうでない物に分け、「午後からメニュー」で操作するなどして、食品の廃棄量を年間200万円以上から50万円前後まで減額されまし

た。またファミリーマートではリサイクル業者を通じて食品ロスの肥料化を実施していること、そしてスターバックスコーヒーではコーヒーの豆かすを牛の乳酸発酵飼料や野菜を育てるたい肥として再資源化していることなど、各店舗での工夫がうかがえます。

一方、学生に対しては「食べ残しがないよう、自身の摂取量を把握した上で、カウンターで伝えてほしい」、「数種類のメニューを食べたい場合は友人(グループ)とシェアしてはいかがですか」といった声もありました。食事をする場合は、ぜひ一度、カウンターで食事量の相談、シェアする場合は取り皿のお願いをしてはいかがでしょうか。

キャンパス内の食品ロス削減には学生の皆さんの協力が必要です!

質問内容		食品ロスに向けての取り組み内容および効果		食品ロス削減で学生に協力してほしいこと
千里山	生活協同組合	生協食堂(高槻を含む)	2011年度から食品ロス削減に向けて取り組みを始め、検査機関等を通して再利用できる食品とそうでない物に分け、「午後からメニュー」で操作するなどして、1,000席を要する食堂で年間200万円以上あった食品の廃棄量を50万円前後まで落とすことができた。	残食に関しては、さほど見受けられないので、特に要望はない。
	不二家商事	第1学舎食堂	各食堂での啓蒙活動	食べ残しとにならないよう、量の要望があればカウンターで話してほしい。
		Kショップ	発注精度の向上、賞味期限の見直し	同一商品で賞味期限の異なるものがあれば、先入れ、先出しに協力してほしい。
		第2学舎食堂	各食堂での啓蒙活動	食べ残しがないよう、量の要望はカウンターで話してほしい。
ファミリーマート	①関係会社との協業で生産、流通時の無駄の削減および販売管理制度向上による食品ロスの削減(随時)②既存の中食商品改良による消費期限の延長(2010年頃より)③卸業者の出荷期限の延長(2018年より)④全国で地域ごとのリサイクル業者を通じて食品ロスの肥料化(1999年より)	同一商品で賞味期限の異なるものがあれば、先入れ、先出しに協力してほしい。		
高槻ミュージアム	スターバックスコーヒー	学生食堂	①計量調理(調理ロス削減・味のバラつき防止=食べ残し量削減)②作り置きを最小限にし、追加調理対応を実践(廃棄量削減)③賞味期限・消費期限の大書および先入れ先出し。また、期限が3カ月未満の食品については、分かりやすく保管場所を区別する(期限切れによる廃棄量削減)。	特になし。
		カフェテリアポト	会社創業当時より注文数の予測を立て、無駄な仕込みなどを減らしている。利用者の待ち時間が増えることもあるが、食品ロスは削減できた。	注文後、待ち時間が増えることがあります。出来たてに近い商品を提供するためにご理解願いたい。

3 学生の声

食品ロスが減らないのは、自らに被害はないと思込んでいるからだと思う。食品ロスによる損失額や廃棄物を税金で処理しているなどのデメリットを提示して意識を高めさせるべきだと思う。(文学部2年次生)

野菜、果物、料理の出来栄に異常なほどのこだわりを持ちすぎているように感じる。某ファストフード店で、少し出来の悪いアイスクリームを捨てる場面に遭遇したことがある。このようなことが普通に行われている日本はおかしいと思う。(経済学部2年次生)

勤務している店では、毎日平均して70Lのごみ袋で2袋程度の食品廃棄が出る。売価にして数万円程度で、ひどい時には10万円近くにもなることがある。(経済学部3年次生)

世界には飢餓で死んでしまう子どもたちがいるのに、日本人は大量の残飯を出して捨てるのだから、日本人は人が飢餓で死ぬのを間接的に容認している。残して捨てるなら、その捨てた分と同じ量を貧しい人たちに渡すというのを企業に義務付けたら良いのではないだろうか。(システム理工学部1年次生)

コンビニでバイトしていて、正直に思うところは、廃棄が生じないようにするのは至難の技である。鮮度管理を1日に7回行っており、どうしても廃棄が生じてしまう。(経済学部1年次生)

コンビニやスーパーに並ぶお惣菜やお弁当は、1日当たりに作る量を最初から決めておき、それ以上は製造しないようにすべきである。経済的な観点から見れば非効率的であるが、利益や売り上げよりも地球に優しい経営を考えられる企業や会社の商品を買いたい。(法学部3年次生)

インスタ映えが流行したせいで、食べられないのに数多く注文して、ロスをさらに招いていると思う。(商学部3年次生)

誰もができることは、必要最低限の食料を使って料理し、食べ残しをしないことである。(社会安全学部3年次生)

食品ロスに対して意識するようになり、食べきれない分だけ購入、買い物で不必要なものは買わないように意識している。お金も貯まるようになった。(文学部4年次生)

Eat all the things put on the table, clear everything in refrigerator before go out buy new food (総合情報学部3年次生)

日本語訳: テーブルにあるものはすべて食べて、新しい食品を買いに出掛ける前に冷蔵庫の中を片付けましょう。

次回のテーマは…「消費税増税を考える」

10月1日から、消費税の税率が8%から10%に引き上げられました。増税前の1カ月の間、学生に支出記録をしてもらい、いくら消費税を負担しているのか調査しました。

11月号「関大誌上教室」アンケートプレゼント当選者の発表について

今号の「関大誌上教室」アンケートにご協力いただいた皆さん、ありがとうございました。プレゼントの発表は、当選者のみ、インフォメーションシステム「個人伝言」で連絡します。「関大誌上教室」のアンケートは次号以降も行う予定です。ご協力をよろしくお願いいたします。



建築・教育業界 / 建築家・大学教員



株式会社ドットアーキテクト 代表
京都造形芸術大学 教授

家成 俊勝さん

兵庫県立神戸高等学校出身
1998年法学部卒業

作りたいのは、人と人がつながれる場所。
人とのつながりが建築家の道を開いてくれました。

大阪市住之江区北加賀屋で建築設計事務所「株式会社ドットアーキテクト」の代表を務める家成俊勝さんは、京都造形芸術大学で教授として教べんも取っています。また古い文化住宅を改築した複合施設「千鳥文化」でバーを経営し、週末に店に立つなど、活動は多岐にわたります。

建築家を目指すようになったきっかけは、大学在学中から訪れていた地元神戸のバーで、バーテンダーから「建築って知っているか」と尋ねられたことでした。建設現場でのアルバイト経験を持つ家成さんが興味を示すと、バーテンダーから「建築は思想や哲学がある奥が深い世界だ」と教わり、スケールの大きな仕事に携われることに魅力を感じたそうです。「バーは私の原点。現在、バーを経営するのも、多くの人と出会えて、新たな仕事につながった場所だからです」。

大学卒業後、バーでアルバイトをしながら建築の専門学校の夜間部に通い、建築設計の基礎を学びます。やがて知人のイベント会場やバーの内装設計を任されるようになりますが、建築設計を本格的に学ぶために建築設計事務所での修業し、2004年に個人事務所を立ち上げました。「建築家と住人と作り手が協働しながら一つのものを作る」という事務所のコンセプトを具現化した住宅「NO.00 (ナンバーゼロゼロ)」が建築業界で評価され、建築家としての地位が高まります。

また、大学1年の時に神戸市の自宅で阪神・淡路大震災に遭遇した家成さんは、ライフラインが遮断された際、地域住民のつながりの重要性を実感。それからは、地域の中で人々がつながれる場を作ること意識しているそうです。それを形にしたのが、小島島の「馬木キャンプ」。瀬戸内国際芸術祭2013に出展したこの作品のコンセプトは「300万円で自作するコミュニティスペース」。地元住民が気軽に交流できる集会所で、料理を作ったり、ラジオ局を作って放送したり、映画を撮影したりして、住民自らが利用方法を考える場所にしました。映画には家成さんも葬儀屋Bの役で出演したそうです。こうした活動が評価され、2011年に京都造形芸術大学に招へいされ、今年4月に教授に就任しました。

今後の目標は2つ。1つは北加賀屋のPRに協力していくこと。もう1つは海外での活動です。海外の建築家とのつながりが増えた第15回ヴェネチア・ビエンナーレ国際建築展の審査員特別表彰受賞の経験を生かし、海外でも建築作品を作っていくそうです。

「学生の皆さんには、いつもと違う場所に出掛けて見聞を広げてほしいですし、自分の生き方は人任せにせず、自分で決断してほしいですね。そして、周りにいる人を大切にしながら、つながりを深めていってください」と締めくくりました。

ある1日のスケジュール

9:00	事務所に社出 打ち合わせ
11:20	事務所を出て大学へ移動 電車で図書館やパソコンで仕事
13:00	大学到着 授業(2コマ)
16:10	授業終了後、打ち合わせ
17:00	大学を出発
19:00	事務所に到着 残務処理
21:00	千鳥文化のバーで仕事 (月1回程度)
23:00	バー閉店
24:30	帰宅



必須アイテムは、ノートパソコンとメジャー、メールや写真撮影に使うスマートフォン、三角スケール、案を書き留めるノートと製図用シャープペンシルなど。

Architect & Professor

VIVA!!

学び易



文学部 総合人文学科

「日本史・文化遺産学専修ゼミ3」

井上 主税 准教授

文化財の魅力や価値を正しく評価し、後世に伝えられる能力を学ぶ。

フィールドワークを通じて、本物を見極める力を養います。

井上主税准教授の日本史・文化遺産学専修ゼミでは、人間の活動によって生み出された有形・無形の文化的創造物について研究しています。世界遺産だけでなく、身の回りの文化遺産も含む研究対象から新たな価値や魅力を見つけ出し、それを元に地域の歴史や文化について考察していきます。

ゼミでは、学生が興味のあるテーマを選び、それに沿った文献を読んで要約し、発表後に意見交換をします。テーマは特定の時代で区切るのではなく、古代から現代まで通史的に研究するため、対象が広範囲に及びます。

各学期に2回は学外でフィールドワークを実施し、「古都奈良や飛鳥地域の史跡」、「正倉院展」、「神戸市や西宮市に所在する灘五郷の酒蔵や近代化遺産」などとともに、関西の博物館や美術館を巡ります。「本や写真だけでなく、現地を訪れ自分の目で実物の資料を確認することは、問題意識の向上にもつながるのです。できるだけ多くの実物を目で見て経験を積むことで、本物を見極める力が育っていきます。いわゆる目利きです。比較できるストックが増えると、物事を判断しやすくなり、知識も心の豊かさも養われます」と井上准教授は言います。

現在、堺市との地域連携事業「百舌鳥・古市古墳群世界文化遺産登録後の展望と課題」を進めている井上准教授は、すでに世界文化遺産に登録された遺産の現状や課題について精査しながら、「百舌鳥・古市古墳群」の望ましい保存および活用方法についての方向性を探っています。

「研究者や学芸員などの専門職だけでなく、例えば公務員として市役所に入所して観光局や地域振興課に配属された時にも、地域の文化遺産の魅力や価値をきちんと評価して、しっかり伝えられるような人材になってほしいと思います。関西は古代に都があったこともあり、史跡も豊富な地域です。100年先も文化遺産を守り伝えていくためにも、若者たちが本物の資料などを見て、文化遺産の魅力や価値を知り、そのPRに関わってもらえればうれしいです」と井上准教授は学生にエールを送りました。



桑原麻佑子さん(3年次生)

2年次の基礎ゼミから井上先生の授業を受けていたため、継続して選びました。日本の服飾史について研究しています。服装は時代ごとに大きく違うため、先生の丁寧なアドバイスを受けて焦点を絞れるようになりました。



内藤祐真さん(3年次生)

このゼミは時代を限定していないため、テーマが決まっていなかった私に合っていました。江戸時代の遊郭で働いていた女性の心理的背景について研究しています。テーマ選択も自由度が高く、好きなものを選んで楽しいです。



井上主税 准教授

興味の対象が定まっておらず、学びたい時代やテーマが決まっていない学生でも参加できるゼミです。フィールドワークが好きで、自分の足で調査をし、見聞を広げたいと思っている学生は大歓迎です。

ぜひ、さまざまなテーマについて問題意識を持って取り組んでいってください。



なるほど・ザ・関大！

「大学スポーツとオリンピック・パラリンピックの精神」 シンポジウム開催

東京五輪を控え、関西大学では2019年11月30日(土)に、「大学スポーツとオリンピック・パラリンピックの精神」をテーマにしたシンポジウムと資料展示を千里山キャンパスで行います。

本学卒業生でロサンゼルス五輪(1932年)陸上三段跳びの銅メダリスト、大島鎌吉氏が残したスポーツ哲学を継承し、大島氏が提唱したオリンピック精神に基づくフェアプレーや文武両道の大切さと現代の大学スポーツを考えるのが狙いです。



関西大学 大阪体育大学 合同シンポジウム 「大学スポーツとオリンピック・パラリンピックの精神」

日時 ✦ 11月30日(土) 13:00~15:50

場所 ✦ 千里山キャンパス 第2学舎4号館 BIGホール100

対象 ✦ 一般、関西の各大学の学生・教職員、スポーツ関係者等

内容 ✦ 講演会、学生による発表、パネルディスカッション

※事前予約制

年史資料展示室企画展

「スポーツの人 五輪の哲人 大島鎌吉」

日時 ✦ 10月1日(火)~2020年3月14日(土)10:00~16:00

休館日：日曜・祝日・大学が定めた休日

場所 ✦ 千里山キャンパス 簡文館1階 年史資料展示室

※入館料無料

「走る哲学者」大島氏とノエルバーカー卿

大島氏は1964年の東京五輪で日本選手団長を務め、選手強化対策本部長として手腕を発揮しましたが、その根底にあったのはオリンピック精神です。そんな大島氏に強い影響を与えたのが、史上唯一の五輪メダリストでノーベル平和賞を受けたフィリップ・ノエルバーカー卿。大島氏は「この核の時代に、人類にとって最大の希望は、史上最大の平和運動であるオリンピックだ」というノエルバーカー卿の言葉を繰り返しました。「走る哲学者」と言われるゆえんです。

原点は凄惨な戦場体験



千里山キャンパスの総合図書館前には、大島氏の功績を記念して、大島邸に植えられていた月桂樹が移植されています。

こうした大島氏の思想の原点は戦争体験です。大島氏は関西大学を卒業し、毎日新聞社に入社。語学力などを買われてドイツに特派員として赴任し、6年間滞ります。その間、欧州各地を取材し、戦場での凄惨な体験を経て大島氏は「フィンランドの誇りであった、かつてのオリンピックの花形たちが、なぜにその8割も戦場の露と消えねばならなかったのか」と著書『死線のドイツ』に書きました。

教育とビジネスのはざままで

シンポジウムのもう一つの柱は大学スポーツです。大島氏が活躍した1936年のベルリン五輪では、本学から大島氏をはじめ6選手が出場し、早稲田の8人に次ぐ人数でした。このように戦前から大学スポーツは、日本のスポーツ界で独特の地歩を占めていました。それは今も変わりませんが、2019年大きな節目を迎えています。

きっかけの一つは3月に発足した「大学スポーツ協会」(略称UNIVAS=ユニバス)です。大学スポーツのビジネス化に成功している全米大学体育協会(NCAA)の「日本版」としてスタートしましたが、加盟校は本学も含め、全国の大学の4分の1ほどにとどまっています。

日本の大学スポーツは学生主体で運営され、現場には「教育の一環」というような意識が根強く残っています。こうした傾向が「ビジネス化」となかなか整合しないのです。シンポジウムではユニバスの池田敦司専務理事や学生アスリートも出席し、今後の大学スポーツの在り方を探ります。



社会学部 2年次生

井内 梨稀さん

仲間と夢中になれる活動がある。
一生もののつながりを見つけました。

社会学部2年次生の井内梨稀さんは、第42回統一学園祭実行委員会常任委員会の事務局長補佐を務めています。学園祭の準備や運営を円滑に行うための責任団体である常任委員会は、各学部とサークルの学園祭実行委員によって構成され、総括責任者として、3年次生が担当する委員長、事務局長、財務局長に、2年次生が担当する各局長補佐2人を加えた常任5役という役職があります。井内さんは他にも、社会学部祭実行委員会の常任局長と祭実行委員代表も兼務しています。

入学当初の社会学部ガイダンスに参加した時、祭実行委員の先輩から「クラブ活動以外でも夢中になれることがあるよ。学園祭活動に学生生活をささげてみないか」と誘われたことがきっかけで興味を持ち、常任委員会の広報局員になります。メディア担当として先輩と一緒に各企業と交渉する中で、企業の担当者との連絡の取り方やメールの書き方など社会人のマナー、交渉・対話の仕方を学ぶことができたそうです。

学園祭当日、多くの来場者が楽しむ姿を見て、広報活動が役立ったという実感がひしひしと湧いてきたと話す井内さん。その時の感動が、2年次も続けたいという原動力になったと言います。人間関係づくりのうまさやスタッフをまとめる能力が評価され、2年次に常任委員会の事務局長補佐に推薦された井内さん。事務局長補佐になると、必然的に3年次には事務局長に就任することになります。責任重大ですが、とことん取り組もうという気概を持って引き受けました。事務局は常任委員会の全体会議の議長を務める部署で、現在は、次年度の活動に生かすために、今年のスケジュールを小まめに記録しているのだとか。そんな井内さんは、学園祭活動で、何事も積極的に企画してくれる仲間感謝する気持ちと、相手の気持ちに立って行動することの大切さを学んだと言います。

今年の統一学園祭のコンセプトは「Link with U～つなげ関大愛～」。「人」と「想い」と「時代」をつなぐという意味が込められています。「来場者、企画を実行する学生、運営側の学生の全員が楽しかったと言える4日間になれば成功です」と意気込む井内さんは「来年は、歴史を受け継ぎながらも、自分たちの特色を出して、新しいことに挑戦し、後輩たちに何かを残したいです」と抱負を語ってくれました。

「学園祭活動では、時には意見がぶつかり合うこともありますが、それは真剣に取り組んでいる証拠。それらの経験を通じて一生もののつながりができると思います。大学に入学した意味を実感できる、夢中になれる団体です」と後に続く仲間を歓迎しています。



学園祭実行委員のメンバーと

今回は、井内さんからのご紹介で武中花菜さん(商学部2年次生)が登場。お楽しみに！



Riki Iuchi

学部・研究科ピックアップ

法学部／法学研究科

政治学系ゼミ研究報告会を開催します

法学部政治学系ゼミでは、毎年11月に合同で研究報告会を開催しています。

この報告会では、6から7つのゼミが、個人研究やグループ研究の成果を発表しています。参加者は毎年約100人です。政治学にはいろいろな分野があるため、初めて耳にするテーマが少なくないのですが、それにもかかわらず学生による議論はとても活発です。

今年は11月20日(水)の午後に、総合図書館1階のラーニング・コモンズで行われる予定です。皆さまのご参加をお待ちしています。学生証をお忘れなく。(副学部長 石橋章市朗教授)

文学部／文学研究科 東アジア文化研究科

文学研究科7月募集の結果

7月7日に行われた大学院入試で、学内進学者が昨年より倍増しました。ここ数年、学内進学者が下降気味でしたが、徐々に明るい話題となりました。

近年、国公立大学も大学院の定員管理が厳しくなり、本学から他大学への進学が増えています。それはそれで結構なことなのですが、大学の研究の継承や活性化には、学内進学者の増加が必須です。これからもこの傾向が維持できるように、大学院の改革や、学部教育の充実をはかりたいと考えています。

(副学部長 乾善彦教授)

経済学部／経済学研究科

経商ゼミナール大会を開催します

12月18日(水)に第55回経商ゼミナール大会を開催します。本大会は経済学部・商学部が合同で実施している学術大会で、さまざまなゼミから学生たちがチームを組んで参加します。これまで学んできた研究成果を披露する貴重な機会ですので、ぜひがんばってください。

(副学部長 鈴木智也教授)



各学部・研究科のさまざまな活動や取り組みなど、トピックスや皆さんへのメッセージをお届けします。

商学部／商学研究科

英語「で」学び、世界へ発信する

商業界の先駆者を育成すべく、ビジネスリーダー特別プログラム(BLSP)を展開。アイデアを掘り下げそれを分析するには母国語を、成果の報告や発表には英語を用い、国際学会における研究報告や各種ビジネスプラン・コンテストでの受賞など、他大学に類を見ない活動を続けています。

(学生主任 千葉貴宏准教授)



社会学部／社会学研究科

11月16日より、「地方の時代」映像祭開催!

第39回「地方の時代」映像祭2019が、11月16日(土)から22日(金)まで千里山キャンパスおよび梅田キャンパスで開催されます。

この映像祭は、放送局部門、ケーブルテレビ部門、市民・学生・自治体部門、高校生(中学生)部門に分かれ、16日に贈賞式やグランプリ作品上映、シンポジウム、17日にワークショップ、18日~22日は各受賞作品の上映が予定されています。ぜひ空いた時間にお越しください。きっといろいろな発見があるはずです。

詳細は「地方の時代」映像祭ウェブサイトまで。(入試主任 松山秀明准教授)

専門職大学院トピックス

法科大学院

令和元年司法試験合格者祝賀会を開催

9月10日に令和元年司法試験の合格発表が行われ、法科大学院修了生12人が合格しました。新修了生12人のうち50%が合格し、この合格率は全国73の法科大学院の中で第8位という素晴らしい結果となりました。



これを受けて10月9日に大阪新阪急ホテルにて、令和元年司法試験合格者祝賀会を関大法曹会と共催で開催しました。祝賀会には合格者、関大法曹会関係者、大学関係者の方々が総勢92人参加し、多くの関係者からお祝いのスピーチをいただき盛況のうちに終了しました。

(入試主任 大和正史教授)

併設校トピックス

関西大学第一高等学校

2019年度全国高校総体(インターハイ)サッカー競技大会出場

一高サッカー部は、4月~6月にかけて行われた大阪高校春季サッカー大会において準優勝し、13年ぶり4度目のインターハイ出場を決めました。



7月25日より沖縄県で開催された本大会では、力を発揮できないまま、1回戦で米子北高校(鳥取県代表)に0対4で敗れましたが、この敗戦を糧に、冬に行われる全国高校サッカー選手権大会に向けて、より一層励みたいと思います。皆さん、ご声援ありがとうございました。

(サッカー部顧問 高坂雄一郎教諭)

政策創造学部／ガバナンス研究科

タイ・チェンマイでの留学プログラム

8月25日から9月14日にかけて、今年度から導入したタイのチェンマイ大学での海外英語研修に13人の学生が参加しました。チェンマイ大学は古都の雰囲気を醸すタイ第二の都市にあり、アジアだけでなく世界中から留学生が集います。

現地では地元企業や自治体の訪問、チェンマイ大学の公共政策学部提供の「SDGs」をテーマにした特別授業を受講しました。語学だけでなく、多様なアクティビティやフィールドワークを経験し、世界に羽ばたくキャリアをしっかりと磨くことができました。(副学部長 石田成則教授)

外国語学部／外国語教育学研究科

学部創設10周年記念行事

今年は外国語学部が設置されてから10年目になります。これを記念して10月11日に記念式典が行われました。記念講演では、ニューサウスウェールズ大学(オーストラリア)でご活躍されているAndy Gao先生をお招きして、「Open new doors in life through learning languages」というタイトルでご講演いただきました。

講演では、ご自身の言語学習体験から母語以外の言語を通して得ることができた経験や価値観についてお話しいただき、外国語学習におけるモチベーションがさらに高まるお話で学生からも大変好評でした。(植木美千子准教授)

人間健康学部／人間健康研究科

精神障害当事者の語りを聴く会

精神障害のある方の支援方法の一つとして、当事者が自己の病を語ることで、エンパワメントやリカバリーを図る活動が、成果を上げています。

教育の場でも実施されており、精神障害当事者が子どもや学生などを聴き手に、自らの病の経験を語りながら、交流しています。

本学部では、12月にこの会の実施を予定しています。語り部の生活のしづらさを聴くことで、精神障害者に対する偏見をなくし、当事者目線の理解を深めていくことを目指しています。

(狭間香代子教授)

総合情報学部／総合情報学研究科

高槻での2つの夏のイベント

去る8月24日に、高槻キャンパスではサマーキャンパスが実施され、1,368人の参加者が模擬講義、キャンパスツアーなどを体験し、緑豊かな環境に恵まれた高槻キャンパス内の充実したプログラムを満喫していました。

また同日、キャンパスのやや北にある萩谷総合運動公園野球場にて、オリックス・バファローズファーム戦を対象とした、総合情報学部生による、観客動向調査も実施されました。学生にとってはプロ野球を対象とした実地の調査となり、本格的な社会調査の方法を学ぶ良い機会となりました。(入試主任 研谷紀夫教授)

社会安全学部／社会安全研究科

11月6日に専門演習発表会を開催

社会安全学部では、毎年3年次生に専門演習発表会を実施しており、今年度は11月6日(水)に開催されます。

専門演習発表会は、4年次での卒業研究発表会の前段階であり研究内容はまだ途中段階であるものの、バラエティに富んださまざまな発表を聴くことができる貴重な場となっています。

(教学主任 河野和宏准教授)



システム理工学部・環境都市工学部・化学生命工学部／理工学研究科

日常の安心と実験・実習の安全

11月になりました。

1年次生は、学業においても課外の活動においても、周りの環境になじんでどう過ごしていけば良いか分かるようになってきたのではないのでしょうか。そのことは、良い意味で安心して過ごせることにつながりますが、逆に言えば、慣れや油断の理由にもなり、安全を脅かされることにもつながります。安心は心の持ちようですが、安全は自分で責任を持って確保すべきという側面があります。一度、自分の過ごし方を点検してみてください。

2、3年次生は、専門科目で学んだ知識や技術

を実験や実習で体得する機会が増えてきたかと思えます。始めのうちは、緊張感を持って臨んでも、慣れてくると作業が雑になったり、ミスをしてしまったりします。知識や技術を体得することが主な目的ですが、実験・実習に関わる動作を安全に遂行する能力を身に付けることも重要な目的です。実験・実習時に習ったいろいろな作業ルールや禁止事項は、これまでのさまざまなリスク管理の知恵から積み重ねられた安全のためのノウハウです。一つ一つ意味を考えながら、点検しましょう。

4年次生は、卒業研究完成に向けた目に見え

る結果がほしくなる時期です。また、こなすべき実験量も多くなる人もたくさんいるかもしれません。気持ちの余裕が少なくなっているのに多くの作業量をこなす時こそ、リスク管理を徹底する必要があります。

理工系3学部では、実験や実習に関わる安全の取り組みをたくさん行っています。もう一度、初心にかえって、ラストスパートに備えてください。皆さんが安心して安全に過ごせるよう、教員と学生が一緒になって取り組みましょう。

(環境都市工学部入試主任 北詰恵一教授)

Attention 大学からの重要なお知らせ

学生生活のマナー

学生の皆さんが通学時に利用する電車・バスや、大学周辺道路、近隣店舗は、一般の方も利用されます。

一人の関大生の行動が、関大生全体のイメージとなり、関西大学の社会的信用を失いかねません。関西大学の学生としての自覚と良識を持ち、マナー・モラルのある行動をとるようにしてください。

電車・バス車内でのマナー

通学時の電車・バス車内は関大生のためのものではありません。周囲の方の迷惑にならないように乗車しましょう。

- 電車・バス車内で大声で騒がないこと。
- 電車を降車する人のために通路を明け、出口付近に荷物を置かないこと。
- 優先座席はお年寄りの方、身体の不自由な方、妊娠されている方などにゆずりましょう。
- 車内では、リュックは前に抱えるか網棚を利用しましょう。

地域住民に対するマナー

大学周辺は多くの店舗や住宅が密集しており、本学学生以外の方々も周辺道路を通行し、近隣店舗を利用していることを認識し、良識ある行動を心掛けてください。

- 車両通行の妨げとならないように、通学時に道幅いっぱい広がって歩かないこと。
- 深夜に騒いだり、店舗前に座り込んだりしないこと。特に飲酒後に店舗の前で集団で居座らないこと。
- 歩きタバコをしないこと(吹田市内全域の道路等の公共の場所における歩行喫煙は条例で禁止されています)。
- ながらスマホをしないこと。

関大トピックス

体育会卓球部、53年ぶりの関西制覇!

9月6日、勝てば優勝が決まる京都産業大戦。第6ゲームで福島卓朗さん(社2)のスマッシュが決まった瞬間、関大ベンチに歓喜の瞬間が訪れました。実に53年ぶりの関西学生リーグ制覇です。

昨秋は2部降格、そして今春の最終戦で1部残留を決めたチームは、今シーズン前半戦を4連勝で終え、後半初戦に同志社大に敗れた状況からの2連勝で見事な優勝。増田隆介主将(社4)は「僕たちが目標にしていた優勝が達成できてすごくうれしい」と安堵の表情を見せていました。卓球部の現役選手だけではなく、卒業生にとっても忘れられない一日となったことでしょう。



応援席に向かって喜ぶ卓球部員(写真提供:関大スポーツ編集部)

日程	対戦校
8月30日	○関西大 4-3 大阪経済法科大
31日	○関西大 4-3 龍谷大
9月1日	○関西大 4-2 関西学院大
1日	○関西大 4-3 立命館大
4日	●関西大 3-4 同志社大
5日	○関西大 4-0 神戸大
6日	○関西大 4-2 京都産業大

※団体戦は、シングルス5試合、ダブルス1試合の合計6試合で先に4ポイントを取れば勝ちとなります。

体育会サッカー部が総理大臣杯全日本大学サッカートーナメントで3位

8月29日から開催された第43回総理大臣杯全日本大学サッカートーナメントにおいて、体育会サッカー部が3位の成績を収めました。

関西地区第2代表として出場したサッカー部は、1、2回戦を勝ち上がり、9月5日に大阪府・ヤンマーフィールド長居で行われた準決勝にて、大会連覇を狙う明治大と対戦。試合は接戦の末、惜しくも1-2で敗れ、初優勝した2005年大会以来となる2度目の決勝進出を逸しました。

今後は、9月に開幕した関西学生サッカー後期リーグで4位以上を目指し、12月の全日本大学サッカー選手権出場と日本一を狙います。



写真提供:永富慎也氏

体育会サッカー部の牧野寛太さんがJリーグ・AC長野パルセイロに入団内定

体育会サッカー部の主将・牧野寛太さん(経4)が、2020年シーズンからJリーグ・AC長野パルセイロの選手として加入することが決定しました。

牧野さんは、正確無比なキックや珍しい稀なテクニックとドリブルでさまざまな形のゴールを演出するアシストのプロ。また、自ら点を取るシュートセンスも兼ね備えており、チームの攻撃の中心となるプレーヤーです。「幼い頃からの夢であったプロサッカー選手になることができ、とてもうれしく思います」とコメントを寄せました。



写真提供:関大スポーツ編集部

秋季マナーアップキャンペーンを実施

千里山キャンパスで9月26日、学生センターが秋季マナーアップキャンペーンを実施しました。

本学では、2008年から学生のマナー・モラル遵守に向けた総合的な啓発活動を展開しており、その一環として、吹田警察署と連携しながらマナーアップキャンペーンを毎年実施しています。

今年度は、重大事故につながる可能性がある「ながらスマホ」、通学時における歩行・自転車マナー、路上喫煙の禁止など「通学マナー」をテーマに設定。11月の学園祭開催に向け、学園祭実行委員会を中心に約15人の学生が参加し、教職員とともに啓発チラシ付きポケットティッシュを配布しながら、マナー向上を呼びかけました。

また、今回はマス・コミュニケーション学研究所の学生が啓発ムービーを制作。ムービーは9月24日~27日の間、凜風館1階の大型モニターで上映しました。

学生の皆さんは、いま一度自身の通学マナーについて見直してみよう。



マナーアップキャンペーン2019
KANSAI UNIVERSITY MANNER UP CAMPAIGN

秋季マナーアップキャンペーン2019啓発ムービー

関西大学公式YouTubeチャンネル(右の2次元バーコードからアクセス可能)で視聴できます。

関大人 四方山話 ◆「大島鎌吉とは何者なのか」

よもやまばなし

けんきち

名誉教授 伴 義孝



1964年東京五輪の国内聖火リレーは、沖縄から出発し、全国7千キロほどを10万もの若者が「トーチの点火タッチ」で継走した。現在、NHK番組「聖火のキセキ」が映像レガシーを回顧仕立てで毎週放映している。継走する凛とした若者たちが頼もしい。では、なぜ走者全員が若者なのか。

本学先輩の大島鎌吉さん(1908~1985)は、戦前三段跳選手として活躍したオリンピックである。1934年に毎日新聞記者となってからも一貫して日本スポーツの振興に貢献した。実績が認められて1960年に東京五輪選手強化対策本部の総括責任者に任命され1964年の本番を大成功へと導いた。

ところで本番間際になると名誉欲に駆られた「ビール腹の政治家や名士」が走りたくいと自薦他薦。だがしかし最終企画会議で「聖火は日本の将来を担う若者に任せ!」と発案者のひとり大島さんが一蹴した。他方で大島さんは公募で決まった公式標語「世界は一つ東京オリンピック」の選定にも携わった。

オリンピックの聖地「ギリシアのオリンピア」から、友愛と平和の象徴「聖火」を、世界中の若者が地球をくまなくリレーしつづければやがて「世界」は「一つ」になる! アメリカの沖縄返還は1972年だったが、1964年聖火リレーの出立地が、なぜ沖縄だったのか忘れてはならない! 大島さんの口癖である。さて来年56年後の「東京オリパラ2020」へ、「キセキ」を誰がどのように託すのか。

編集後記

本号は大阪府初の世界文化遺産として登録された「百舌鳥・古市古墳群」の特集に加え、シンポジウム「大学スポーツとオリンピック・パラリンピックの精神」を11月30日(土)に控えて大島鎌吉氏とそのスポーツ哲学について力を入れる構成を取りました。一見異なる話題ですが、積み重ねられた英知を正しい形で現在に根付かせ、未来につないでいくという点で両者は共通しています。食品ロス問題に、魅力的なOB紹介、そして学園祭の中心で活躍する2年次生の記事もぜひ、現在まで続く英知のリレーと結びつけてお読みください。

(広報委員・社会学部准教授 溝口佑爾)



関西大学通信 “KANDAI STYLE”

発行日:2019年10月31日
発行:関西大学広報委員会
〒564-8680 大阪府吹田市山手町3-3-35
電話:06-6368-1121(大代表)

今月の表紙

第42回関西大学統一学園祭
実行委員の皆さん